

名古屋市立大学医学部附属 みどり市民病院 公的医療機関等2025プラン

令和6年7月 策定

【みどり市民病院の基本情報】

医療機関名：名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院

開設主体：公立大学法人名古屋市立大学

所在地：愛知県名古屋市緑区潮見が丘一丁目77番地

許可病床数：205床

(病床の種類)

一般病床：205床

(病床機能別)

急性期：100床 回復期：105床

稼働病床数：205床

(病床の種類)

一般病床：205床

(病床機能別)

急性期：100床 回復期：105床

診療科目：31科

内科、消化器内科、呼吸器・アレルギー疾患内科、リウマチ科、循環器内科、
内分泌・糖尿病内科、血液・腫瘍内科、脳神経内科、腎臓内科、外科、消化器
外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、乳腺外科、形成外科、整形外科
産婦人科、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、精神科、放射
線科、麻酔科、脳神経外科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、臨
床検査科

職員数：常勤248人（令和6年4月1日現在）

医師	32人
薬剤師	13人
看護職員	124人
管理栄養士	4人
放射線技師	11人
理学療法士	9人
作業療法士	3人
臨床検査技師	13人
臨床工学技士	3人
視能訓練士	1人
言語聴覚士	2人
その他	33人

【1. 現状と課題】(愛知県地域医療構想 平成28年10月を一部改編)

① 構想区域の現状

(人口の見通し)

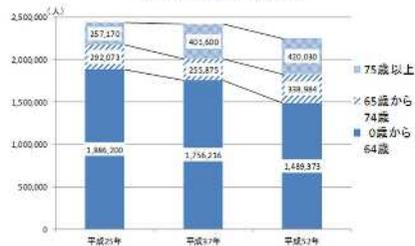
○ 名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。

○ 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

<人口の推移> ※ () は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
	(1.00)	(0.99)	(0.92)	(1.00)	(1.18)	(1.35)	(1.00)	(1.57)	(1.62)
県	7,434,996	7,348,135	6,855,632	1,647,063	1,943,329	2,219,223	741,801	1,165,990	1,203,230
名古屋・尾張中部	2,435,443	2,413,691	2,248,387	549,243	657,475	759,014	257,170	401,600	420,030
	(1.00)	(0.99)	(0.92)	(1.00)	(1.20)	(1.38)	(1.00)	(1.56)	(1.63)

<名古屋・尾張中部構想区域>



(医療資源等の状況)

○ 病院数が多く、また、大学病院(特定機能病院)が2病院あり、救命救急センターも7か所整備されています。

人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。

○ DPC調査結果によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えられます。

○ 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷)の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。

○ 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、圏域内(18病院)において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料(ICU)・新生児特定集中治療室管理料(NICU)・総合周産期特定集中治療室管理料(MFICU)・ハイケアユニット入院医療管理料(HCU)・新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)の届出がされています。

○ 平成25年度(2013年度)NDBデータに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にありますが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料(SCU)については尾張東部医療圏へ患者の流出があります。尾張中部医療圏の自域依存率は0%であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出しています。

<医療資源等の状況>

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%
医療施設従事者数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事者科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
医療・医療施設従事者数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事者数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積(k㎡)	5,169.83	368.34	—

(入院患者の受療動向)

【名古屋医療圏】

○ 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にあります。また、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられます。

<平成25年度の名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位:上段 人/日、下段:%)

患者性別	医療機関所在地													
	名古屋	豊田	尾張中部	尾張東部	尾張北部	知多半島	西三河北設	西三河南設	西三河南設	東三河北設	東三河南設	豊川	合計	
高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	*	1,507
	87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	—	100.0%
急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	*	4,239
	88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	—	100.0%
回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21	4,325
	88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	—	100.0%
慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743
	79.0%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%

＜平成25年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住居地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西	尾張北	知多半島	西三河北	西三河東	西三河南	東三河北	東三河南	海外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.5%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830
	79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%	
慢性期	2,191	80	33	136	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
	84.0%	3.1%	1.3%	3.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%	

・厚生労働省から提供された「必要病床数等推計ツール」のデータを基に作成。
 ・レポート情報等活用の際の制約から、集計結果が10（人/日）未満となる数値は公表しないこととされており、「*」と表示している。

【尾張中部医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出しています。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入しています。

＜平成25年度の尾張中部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住居地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西	尾張北	知多半島	西三河北	西三河東	西三河南	東三河北	東三河南	海外		
名古屋医療圏	高度急性期	50	*	*	*	*	19	*	*	*	*	0	*	*	69
		72.3%	—	—	—	—	27.5%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
尾張中部医療圏	急性期	123	*	82	*	16	46	*	*	*	*	0	*	*	267
		46.1%	—	30.7%	—	6.0%	17.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	112	*	111	*	19	46	*	*	*	*	0	*	*	289
		38.9%	—	38.5%	—	6.6%	16.0%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	慢性期	33	*	104	*	*	25	*	0	0	*	0	*	*	162
	20.4%	—	64.2%	—	—	15.4%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

＜平成25年度の他医療圏から尾張中部医療圏への流入入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住居地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西	尾張北	知多半島	西三河北	西三河東	西三河南	東三河北	東三河南	海外		
尾張中部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	*
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
名古屋医療圏	急性期	16	*	82	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	98
		16.3%	—	83.7%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	26	12	111	*	26	*	*	*	0	*	*	*	*	172
		14.9%	6.9%	63.4%	—	14.9%	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	慢性期	119	21	104	*	30	15	*	0	0	0	0	0	*	289
	41.2%	7.3%	36.0%	—	10.4%	5.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

(地域医療構想における機能別必要病床数の推計)

- 愛知県においては、現在の医療提供体制が変わらないと仮定し、現在の流入・流出の状況が平成37年（2025年）も続くものとして、医療機関所在地ベースで必要病床数を推計しています。

- 名古屋・尾張中部構想区域の平成37年度の必要病床数は、平成27年度の病床数と比較すると、全体で483床の減少、病床別では、回復期は5,450床（+264.7%）の増加、高度急性期は3,720床（-56.3%）、急性期は1,171床（-12.7%）、慢性期は1,042床（-22.6%）の減少を見込んでいます。

＜平成27年度病床機能報告結果と平成37年必要病床数との比較＞

(単位：床)

構想区域	区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
名古屋 ・尾張中部	平成37年の必要病床数①	2,885	8,067	7,509	3,578	22,039
	平成27年病床機能報告	6,380	8,923	1,989	4,463	21,755
	平成27年の病床数②	6,605	9,238	2,059	4,620	22,522
	差引①-②	△ 3,720	△ 1,171	5,450	△ 1,042	△ 483

② 構想区域の課題

- 大学病院（特定機能病院）が2病院あり、救命救急センターも7か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。

- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。

- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

③ 自施設の現状

○ 理念

地域の健康未来を創造する大学病院として、安全で高度な医療の提供とともに地域医療の持続的発展に貢献する医療人を育成します。

○ 基本方針

- ・ 急性期医療及び回復期医療をワンストップで提供し、「治し支える医療」を実践します。
- ・ 安全で高度かつ先進的な医療の創出とともに、地域医療のニーズに的確・迅速に応えます。
- ・ 地域包括ケアシステムの深化・発展に寄与し、地域との調和及び共生を目指します。
- ・ 「地域を診る心」と「常に学ぶ心」を大切にす誠実で優れた医療人を育成します。
- ・ 先制的かつ集学的な予防医学研究の推進により健康社会の実現に貢献します。

○ 令和6年4月診療実績

- ・ 病床稼働率 : 急性期 77.4 % (72.0 %) 回復期 61.4 % (63.3 %)
 - ・ 平均在院日数 : 急性期 12.0 日 (14.8 日) 回復期 26.9 日 (26.3 日)
 - ・ 新入院患者数 : 221 人 (174 人 / 月)
 - ・ 手術件数 : 72 件 (54 件 / 月)
 - ・ 医薬材料費比率 : 20.6 % (22.3 %)
- ※括弧内は令和5年度実績

○ 自施設の特徴

- ・ 二次救急医療
- ・ 新興感染症発生・まん延時における医療

④ 自施設の課題

当院においては老朽化した施設や設備の再整備が課題となっています。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 将来における医療の質・量の変化に適切に対応すべく、地域の医師会並びに各病院と連携・協働を推進し以下の役割を担ってまいります。
 - ア 地域医療の深化・発展に貢献できる医療人を育成いたします。
 - イ 先制医療を含めた予防医学研究を推進し地域医療に還元できるよう尽力いたします。
 - ウ 安全で高度な高齢者医療や二次救急医療を実施いたします。
 - エ 新興感染症を含めた感染症治療に積極的に対応いたします。
 - オ 医療 DX の実証・実装の場となり、医療のみならず地域包括ケアシステムの深化・発展に資する情報発信に努めてまいります。

② 今後持つべき病床機能

今後計画している病院の移転にあたっては、市立大学病院群内での病床再編により、急性期240床、回復期105床とすることを予定しております。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

構想区域内において増床を行うことなく下記のとおり病床再編を行います。

【名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院 +140床】

	現在 (令和5年度病床機能報告)		将来 (2030年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	100		240
回復期	55		105
慢性期	0		0
休床	50		0
(合計)	205		345

(参考 名古屋市立大学病院 ▲60床)

	現在 (令和5年度病床機能報告)		将来 (2030年度)
高度急性期	725	→	675
急性期	47		37
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	772		712

※精神科病床(28床)は含まない。

(参考 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター ▲40床)

	現在 (令和5年度病床機能報告)		将来 (2030年度)
高度急性期	274	→	254
急性期	214		194
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	488		448

※感染症病床(10床)は含まない。

(参考 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター ▲40床)

	現在 (令和5年度病床機能報告)		将来 (2030年度)
高度急性期	261	→	249
急性期	239		211
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	500		460

(参考1)

市大病院群(4病院)の増減内訳

		再編前	再編後	差
病床機能	高度急性期	1,260	1,178	△82
	急性期	600	682	82
病床数		1,965	1,965	0

(参考2)

名古屋・尾張中部医療圏の病床機能報告

	高度急性期	急性期	計
2022年度病床機能報告	5,727	7,596	13,323
2025年度病床必要量	2,885	8,067	10,952
差	2,842	△471	2,371

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率 : 急性期 84.0 % 回復期 91.2 %
- ・ 平均在院日数 : 急性期 14.6 日 回復期 28.0 日
- ・ 新入院患者数 : 264 人 / 月
- ・ 手術件数 : 63 件 / 月

経営に関する項目*

- ・ 医薬材料費比率 : 22.0 %

その他

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】(自由記載)

新病院について

○ 5 疾病 6 事業への対応

5 疾病	がん	手術や薬物療法
	脳卒中	脳血管領域における治療病院へ転院搬送
	心筋梗塞等	慢性心不全、不整脈、虚血性心疾患を中心とした医療
	糖尿病	慢性合併症治療や合併症予防
6 事業	精神疾患	精神病床を有する病院へ転院搬送
	救急医療	第二次救急医療施設として入院を要する患者の治療
	災害医療	重症未済患者の受け入れを中心とし通常医療の持続並びに地域医療の回復支援
	周産期医療	妊娠中期までの管理とし以降は地域又はご希望の医療機関へ紹介
	小児医療	特殊外来を含めた外来中心の医療
	へき地医療	—
	新興感染症対応	第一種協定指定医療機関として対応

○ 医療従事者の配置

市立大学病院群内の再配置による体制整備を行います

○ 災害への対応

地震対策 : 免震装置及び液状化リスクに対しては必要に応じ地盤改良等を検討します。

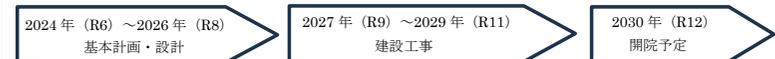
水害対策 : 構造上の嵩上げや地下の設備配置等の工夫を検討します。

*東海豪雨後の名古屋市における主な対策 ①汐田ポンプ所の排水能力を約2.3倍に増強しました ②雨水管の能力を増強しました ③鳴海駅南側駅前広場の地下に雨水貯留施設(2,000m³)を増築しました

○ 移転候補地

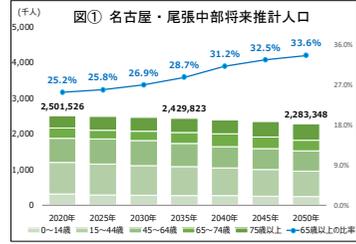
名鉄鳴海駅北側(鳴海駅前第二種市街地再開発事業用地)

○ 想定スケジュール(諸条件が整った場合)



参考資料

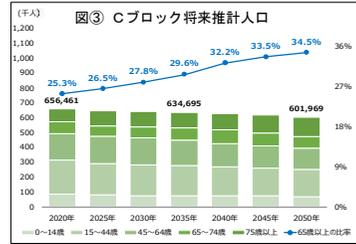
○ 医療需要推移



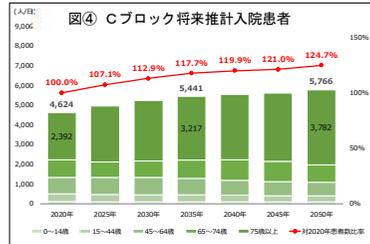
* 国立社会保障・人口問題研究所（2023年推計）を一部改編



* 将来推計人口（図①）×性・年齢階級別愛知県受療率（注1）
注1 厚生労働省 患者調査（2020年度）



* 国立社会保障・人口問題研究所（2023年推計）を一部改編



* 将来推計人口（図③）×性・年齢階級別愛知県受療率（注1）
注1 厚生労働省 患者調査（2020年度）

名古屋・尾張中部医療圏・Cブロックともに人口は減少傾向にあるものの、65歳以上の高齢者人口は少なくとも2050年まで増加傾向が続くことが見込まれます。（図①、③）

名古屋・尾張中部医療圏・Cブロックともに入院患者数は少なくとも2050年まで増加傾向が続くことが見込まれます。（図②、④）

【公的医療機関等2025プランの修正について】

※該当部分抜粋

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

【名古屋市立大学病院】▲60

	現在 (令和5年度病床機能報告)		将来 (2030年度)
高度急性期	725	→	675
急性期	47		37
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	772		712

※精神科病床（28床）は含まない。

【名古屋市立大学医学部附属東部医療センター】▲40

	現在 (令和5年度病床機能報告)		将来 (2030年度)
高度急性期	274	→	254
急性期	214		194
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	488		448

※感染症病床（10床）は含まない。

【名古屋市立大学医学部附属西部医療センター】▲40

	現在 (令和5年度病床機能報告)		将来 (2030年度)
高度急性期	261	→	249
急性期	239		211
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	500		460